

松支図書館だより 9月号

平成28年9月1日

熊本県立松橋支援学校図書館発行

猛暑の日々が続き、例年になく短い夏休みでしたね！児童生徒の皆さん、どのように夏休みを過ごしましたか？二学期が始まる8月29日の朝には涼しい風と低い気温に秋の訪れを感じた人も多かったのではないのでしょうか？また田んぼでは稲穂も見え始め、たくさんのおとんぼに出会います。さあ、頭と心にスイッチを入れ替えて充実した二学期にしましょう。

貸出状況

	4月	5月	6月	7月	合計
H27年度	176冊	223冊	259冊	290冊	948冊
H28年度	51冊	202冊	244冊	380冊	877冊

熊本地震の影響で、4月は学校も休校になり本を読むという心の余裕すらなかったのではないのでしょうか。その分も含めて今年の秋はたくさんのお本に出会って欲しいものです。

☆☆☆☆小川図書館の本を並べています☆☆☆☆

いつも団体貸出で宇城中央図書館の本を並べていましたが図書館が被災してまだ、利用ができなくなっています。そこで本校から一番近い小川図書館から300冊の本を借りてきました。いつもの利用と同様に丁寧に取り扱ってください。そして、たくさんの人に利用してもらいたいものです。



◇◇◇◇【新刊本紹介】◇◇◇◇

【君の臍臓をたべたい】住野 よる著 双葉社

ある日、高校生の僕は病院で1冊の文庫本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それは、クラスメイトである山内桜良が密かに綴っていた日記帳だった。そこには、彼女の余命が臍臓の病気により、もういくばくもないと書かれていた・・・全ての予想を裏切る結末まで、一気読み必至！



【くまくまパン】西村 敏雄著 あかね書房

くまさんとしろくまさんが、パン屋をはじめました。ある日、お客さんにいちばんのおすすめをきかれたくまたちは、自分のパンこそいちばんとゆずらず、お店はお休みになってしまいました。そこへ、王様のかばがやってきて「まかせなさい」というのですが…。ほわっとあまくて、ぴりっとからい、おいしいパンみたいな物語絵本です。



☆☆☆ リレーエッセイNO 52 ☆☆☆

「読書のきっかけ」

私が本を読むようになったのは、物心ついた頃からだと思います。母方の実家が県外の田舎でしたので、当時そこまで行くのに電車や船、バスなどを乗り継いで8時間以上掛かっていました。帰省時に私が退屈しないよう、毎回母が本を何冊か買ってくれました。勿論帰省して祖父母に会える嬉しさもありましたが、いつの間にか買ってくれる本を読むことが嬉しくて帰省していたように思います。そして、たくさんの本との出会いの機会を作り、私を本好きにしてくれた母に感謝しています。

数え切れないほど読んだ本の中で、思い出に残る本の一つとして『少年たんていブラウン』があります。シリーズで全10巻の本なのですが、小学生時代に何度も図書館で借りて読みました。様々な事件を主人公の少年たんていロイ＝ブラウンが推理・解決していくストーリーで巻末に推理（こたえ）が載っている本です。事件を読んで自分なりに推理し、自分の推理が正しかったのか、ドキドキしながらこたえを読んでいたことを今でもよく覚えています。（ちなみに、この本は松橋支援学校の図書館にもあります。図書館で見つけたときは思わず笑顔になりました。）

『少年たんていブラウン』は、私がコナン・ドイルのシャーロック・ホームズのシリーズを読破し、シドニィ・シェルダン他たくさんの作家のミステリーやサスペンスの本を読むきっかけとなった本でもあります。



学生時代は毎日のように本を読んで過ごしていましたが、大学を卒業し、社会人となってからは本を読む生活から少しずつ離れてしまい、ゆっくりと本を読むことが少なくなりました。その様な中、遺伝なのか、毎日読み聞かせをしていたからか、私の子どもが本が大好きで、子どもと地元の図書館に毎週通って絵本を中心に借りて一緒に読んでいます。昨年1年間で500冊近くの本を読みました。今年は4月の地震の影響で地元の図書館で借りることができない状況ですので、隣町の図書館に借りに行っています。（図書館は、私の知的好奇心をくすぐらせる場所です。）4月から150冊以上の本との出会いがありました。どの本も私や私の子どもの毎日を楽しませてくれました。

また、絵本は文章（文字）だけでなく、絵も重要なポイントだと思います。私は個人的に岡田千晶さんの描く絵が大好きです。文章を引き立たせる絵は、見るたびに心を癒してくれるのでお勧めです。



今の私はたくさんの本との出会いを大切に日々過ごしていますが、読書には自分なりのペースがありますので、じっくりと1冊の本を何度も読んだり、気になる本を片っ端から読んだり、みなさんも、自分なりの読書生活を楽しんでください。読書は楽しいですよ♪